

# みんな

始めよう！

ユニバーサル農業



## ユニバーサル農業って？

担い手の高齢化に伴い、後継者不足、休耕地の増加など、問題を抱える日本の農業。農業の抱える問題を今いる農家、農業者だけで解決することは難しいのかもしれない。

この問題点を解決するためのひとつのアプローチとして「ユニバーサル農業」という取組みが始まっています。年齢や性別、障害の有無などに関わらず「誰もが参加できる農業」という新しい関わり方を提案し、農業の働き手が増えることで後継者不足などの解決につながると期待されています。

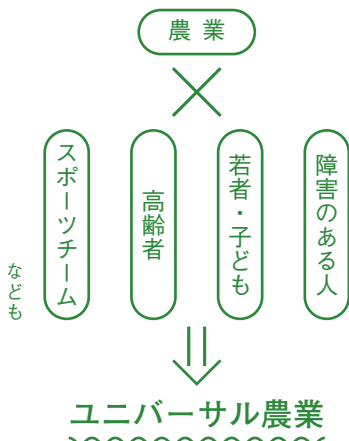
普段、農業と関わりのない人達もまずはこの取組みを知り、応援することで参加につながります。最も手軽なユニバーサル農業への参加方法は、地元の農業者、福祉施設などで作られた野菜や生産品を買うこと。私達消費者が、少し行動を変える、そしてその行動の積み重ねが、結果として農地を守ることにつながるのかもしれない。

## 農業×〇〇

近年、ユニバーサル農業という動きの中で、実際に様々な人が農業に関わる動きが活発化しています。障害者が農業を通じて社会とつながる。スポーツチームが兼業として農業を始める。元ヤンキーが農業に取り組む。従来の農家だけが農業を行うのではなく、様々な立場の人が様々な形で参加することができる、そんな懐の深さが農業にはあるのです。

中でも障害者、引きこもり、ニートなど、働くことが困難だった人達が農業を通じて、社会参加する動きに期待が集まっています。

今号ではこの農業×福祉の取組みを紹介しながらユニバーサル農業の可能性をお伝えします。



## INTERVIEW 01

## 福祉×農業=美味しい卵と未来への可能性

障がい者就労・生活さぽーとピース



四街道市にも福祉と農業を掛け合わせ、障害者の就労と生活を応援している事業所、ピース（特定非営利活動法人みのり福祉会が運営）があります。

ピースでは養鶏、農作業、シイタケ栽培、商品の納品、ポスティング作業などをしながら、障害がある人達が一般企業などへの就職をめざし、社会に出るために必要なことを2年間、学んでいきます。

主な作業である養鶏でいえば、動物相手の仕事で毎日の世話が必須、利用者は欠かさず通所することが求められ、生死に関わる責任を持つこととなります。これは社会に出ていく上でも毎日通い、責任を持って仕事をするということにつながります。

また、スタッフ、仲間と連携して取り組む過程で準備、連絡、報告といった意思疎通の必要性があります。一般

社会で働くことに必要なステップが養鶏などの作業を通してすべて学ぶことができるのです。

約400羽の鶏を飼育し、卵を生産するだけでなく、それをスーパーや直売所で販売することも意義深いことと言えます。買ってもらい、食べてもらうことで社会との関わりを体感し、責任ある社会人の一員であるということを実感するきっかけにもなるのです。

基本的な挨拶や身だしなみなども自然と身につく上に「始めは多くのことが困難だった利用者が驚くほど成長を見せてくれる」とピース管理者の神野<sup>かみの</sup>孝浩<sup>たかひろ</sup>さんは言います。利用者のご家族からも「うちの子がこんなにできるとは」と喜びの声をいただくことも。農業は障害がある人の能力を最大限に生かし、可能性を広げてくれる重要なツールのひとつと言えるでしょう。

ピースでは設立から7年の間に30人の方を社会に送り出すことができました。ここで育てられた卵の美味しさも口コミで徐々に広がり、多くの人に親しまれるようになってきました。放し飼いでのおびのび育てられた鶏から生まれた絶品卵の味をぜひ、味わってください。



※特定非営利活動法人みのり福祉会では、ピースの他に就労継続支援B型事業所として農作業、ポスティング作業などを行う青空協同組合も運営しています。

## 農業の力で壁のない働き方

### 株式会社OMOしろい

「障害があっても、なくても、みんないろんな個性があるでしょ？」

白井市で農業と福祉の連携事業を行う株式会社OMOしろいの代表・宇賀俊之さんは笑顔で言います。宇賀さんは平成27年、ちば起業家大賞を受賞し、新たな農業と福祉の連携の可能性を模索するトップランナーとして注目されています。この会社には知的障害者、元ひきこもり・ニート、高齢者など様々な人が明るくハツラツと働いています。様々な個性を受け入れ、共生していく、そんな力が農業にはあるのです。

もともと宇賀さんは福祉に精通していたわけではなく、OMOしろいは一般的な会社でした。ある日、経営するカフェの忙しそうな様子を見たお客さんから、長らく引きこもり、心を閉ざしてきた青年を紹介され、雇用することになりました。与えられた仕事は失敗続きでしたが、宇賀さんの方針でスタッフは誰一人、責めずに根気よく指導することを徹底しました。

しばらくそんな日が続き、成長が見えない青年にスタッフが厳しめの口調で進退を問いました。青年は初めて見せる真剣な表情で意外な言葉を口にしました。

「この会社の役に立ちたいんです」

この日を境に人が変わったかのように成長していき、今では、会社の番頭も務めるほど、なくてはならない存在になっています。



うがとしゆき  
宇賀俊之さん

生協職員、農業者、減薬農法の研究者を経験し、平成21年、質のいい農作物の仕入れ、販売を手掛ける「株式会社ニッポン食堂」を設立。平成25年に『農cafe&shop OMOしろい』として再出発し、平成28年「株式会社OMOしろい」へ社名変更。福祉との連携を模索しながら、株式会社として前例のない取り組みに挑戦し続けています。



こうした経験から、福祉との共存の可能性を感じた宇賀さんは農業生産法人としてさつまいもなどの農作物の生産を始め、知的障害者の雇用に挑戦することになります。

まず、じっくり個性を見極めることから始めました。手順を紙芝居で説明したり、草花の種類を押し花のしおりにして説明したりとスムーズに作業を進める工夫をこらしました。そこでわかったのは、一人ひとりに個性、特性があり、適した作業があるということ。そして、根気よく見守ることでスキルアップが可能だということでした。

OMOしろいの特徴のひとつに株式会社としてきちんと利益をあげていることが言えます。作ったさつまいもや仕入れた大根を干しイモや切干大根に加工し、販売することで利益率をあげる「農・福・商・工(加工)」を実践しています。さらに野菜の仕入れ、販売やカフェでの食事の提供なども並行して多角的な営業体制で利益を確保しているのです。

宇賀さんは「もともと福祉のことはよくわからず始めたんです。その時その時で困難はあるけど、楽しんでやってますよ」と言います。偏見や先入観なく取り組んできたからこそ、障害者、元ひきこもり・ニートといった人への壁が一切なく、創意工夫をすることで誰もが輝ける職場づくりに成功しているのです。

障害がある人もそうでない人も誰もが当たり前共生する環境、そういった場がさらに増えていけば、どんな人にとっても生きやすく、希望ある社会となることでしょう。

## ユニバーサル農業に関する みんなで地域づくりセンターの これまでの取り組み



農業の問題は、ひとつの地域だけで解決できるものではありません。そこで、みんなで地域づくりセンターは、四街道市をはじめ県内のユニバーサル農業を応援するために、ちばユニバーサル農業フェスタ開催に協力しています。農業者、福祉施設、市民活動団体などをコーディネートし、地元の小中学校、高校に声掛けし、様々な人が交流しながらユニバーサル農業を体験できる場を提供しています。

また、当センターが取り組んできた、福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」も交流と販路拡大という趣旨が重なることから、フェスタ内で開催しています。

### ちばユニバーサル農業フェスタ2016

日時：平成28年12月4日（日）10:00-15:00 ※雨の場合は館内で開催します

場所：四街道市文化センター（広場、館内）

内容：農作物・手作り加工品の販売、四街道のグルメ、福祉施設製品の販売、就労支援の相談会、ワークショップ、ステージプログラム、抽選会など

主催：ちばユニバーサル農業フェスタ実行委員会

協力：四街道市みんなで地域づくりセンター／公益財団法人四街道市地域振興財団

## おしらせ

みんなで地域づくりセンターでは、これから地域で何かしたい人、すでに活動している人をサポートするプログラムや講座を実施しています。ぜひ参加してください。

### 第3回 子ども支援団体交流会 子どもを取り巻く状況と支援

#### — 地域に育つ子どもの環境を知り、必要な支援を考えよう —

子どもの6人に1人が貧困であると言われる現在、四街道市の子ども達はどんな状況で育ち、どんな問題を抱えているのでしょうか。今回の交流会では市の家庭支援課など担当課に現状を聞き、私たちが地域でできる支援は何かを考えます。

日時：平成28年12月10日（土）10:00-12:00

場所：四街道市文化センター 203号室

対象：子どもを支援している団体関係者、民生児童委員、主任児童委員、自治会役員、学校関係者、子どもの育ちに関心のある市民の方

### 拡大自治会情報交換会「地域で支える高齢化の時代」

#### — 5年先・10年先にむけて、今 始めるべきこと —

四街道市の5年先、10年先には、地域によって75歳以上の高齢者比率が50%を超えることが想定されています。データから将来を予測し、今地域で必要なことは何か、始めるべきことはあるのか、講義を聞き、参加者同士でディスカッションします。

日時：平成29年1月30日（月）13:30-16:30

場所：四街道市文化センター 301号室

対象：自治会役員及び関係者、民生児童委員、市民活動団体、関心のある市民の方

内容：講義 川北秀人さん IIOHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表  
グループディスカッション — 地域の課題と地域でできること —

お申し込み、お問い合わせは  
みんなで地域づくりセンターへ  
お電話ください

Tel. : 043-304-7065



みんなで地域づくり  
キャラクター  
くりんちゃん

## 今号で紹介した団体について

特定非営利活動法人みのり福祉会  
障がい者就労・生活さぽーとピース

所在地：四街道市物井1798-15

Tel. / Fax. : 043-424-1004

Web : <http://minori294.ec-net.jp/>

株式会社OMOしろい

所在地：白井市谷田1349-4

Tel. : 047-404-7904 Fax. : 047-404-7905

Web : <http://www.nipponshokudou.com/>

## 四街道市みんなで地域づくりセンターについて

四街道市みんなで地域づくりセンター

(四街道市シティセールス推進課分室)

開館日時：火-金 9:00-20:30 / 土 9:00-17:00

休館日：日・月・祝日・年末年始

所在地：四街道市大日396 四街道市文化センター 1階

Tel. : 043-304-7065 Fax. : 043-422-7051

E-mail : [info@minnade.org](mailto:info@minnade.org) Web : <http://minnade.org/>

Facebook : <https://facebook.com/yotsukaido.tiikidukuri/>